パリダカV奪還 増岡選手が誓う

「世界一過酷なラリー」と言われる2007年パリダカールラリー（通称パリダカ）が6日、ポルトガルのリスボンからスタートするのを前に、入間市在住で「チーム・レプソル三菱ラリーアート」から参戦する増岡浩選手(46)が木下博市長を表敬訪問し、4年ぶり3度目の優勝奪還を誓った。

増岡選手のパリダカ挑戦は1987年に初参戦して今回が20回目。2002年に初優勝を飾り、翌年には日本人として初めて連覇を果たした。04年は惜しくも2位。05年、昨年と連続でリタイアの不運に見舞われ、今年は雪辱を期している。

増岡選手は「06年は山あり谷ありだった。モロッコでの新型車のテスト走行など準備はすべて整った。今年も熾烈な戦いになると思うが、チームは6連勝中で私もV3を狙う」と意気込みを語り、木下市長は「優勝は簡単ではないが、思い切り挑み、元気な入間・生き生き大使としての役目を果たしてもらい、大見出しになるよう頑張ってください」と激励した。

パリダカは北西アフリカのサハラ砂漠などを舞台に1979年から毎年、年末年始に行われている。今年は例年より一週間遅い6日にリスボンを出発してアフリカに入り、モロッコ、モーリタニア、マリを経て21日にセネガルのダカールに到着する。政情不安などの理由で直前にコース変更があり、総走行距離は8708キロ。

増岡選手は「レースは攻めて勝つときと守って勝つときがある。今回は守って勝つときだと思っている。前半は3～5位できっちり走り、中盤が山場。そこで一気に出られればいい」と冷静に勝機をうかがっている。

4年ぶり3度目の優勝を誓い、木下博市長と握手を交わす増岡浩選手。左は千秋夫人＝12月28日、入間市役所市長室

ネパールでエ

独立行政法人「国際協力機構」の青年海外協力隊員として派遣される

猪突に生きる 1

全日本サイドカー・年間王者 渡辺正人さん

日の丸背負い世界へ

「世界の舞台に立ってみたい」夢が現実になろうとしている。6月に英国領のマン島で開かれる最古の公道オートバイレース「マン島TTレース」のサイドカー部門に参戦する。

「世界の水準がどのくらいかは分からないが、外国人相手に真正面から戦いたい」と大きな目を輝かせる。

8年前、レーシングサイドカー界に飛び込んだ。仲間とのツーリングなどバイク三昧の日々を送る中、熊谷市内のなじみのバイク店の店主から「サイドカーレースに出てみないか」と誘われた。

「子供のころサイドカーに乗るヒーローにあこがれていた。ぜひ、やってみたい」と迷うことなく飛びついた。

平成11年に静岡県の富士スピードウェイでのレースでデビュー。完走したが、結果は最下位。悔しさはあったが、それ以上にレースの魅力にとりつかれた。

最高速度は250キロ超。新幹線のぞくる感じ。公道と違って、どんなにスピードを出しても怒られないのがいい」

2シーズン目、難技人生を左右する大事故に遭う。岡山のサーキットで練習走行中にマシンがスピンして転倒。全身打撲で長期入院を強いられた。激痛よりもレースに出場できない無念さが全身を襲った。

悶々とするリハビリの日々。一方で「バイクに乗りたい」と心ははやるばかりだった。復帰したい気持ちを妻、桂子さんに打ち明けた。「レースと家族とどっちが大切なの？」。一瞬、答えにつまったが、きっぱりと言った。

「それは比べられないよ。でも、おれはレースに出たいんだ」

夫婦の危機も乗り越えて、17年には全日本サイドカー選手権で念願の初の年間王者に輝いた。

国内の2輪レースの最高峰、鈴鹿8時間耐久ロードレースなど華やかなモータースポーツ界でも、知名度が低いレーシングサイドカー。3つのタイヤが付いた車高が低い特殊なマシンを、ドライバーとパッセンジャーと呼ばれる同乗者が2人で操縦する。

コーナリングの際には同乗者の体重移動が運転に大きく影響するため、2人の息が調和するかによって成績が左右される。

パートナーは元同僚の吉田秀幸さん。体のサイズや性格も違うが、コンビネーションはぴったりだ。その相棒は「サイドミラーから見える表情や体の動きで相手を追い抜くときやコーナーを曲がるタイミングは分かる」と明かす。

日本一を手にして次の戦いの舞台に選んだのが伝統の公道レース。「去年の冬季五輪を見て日の丸を背負ってみたかった」。ためらわずレース出場を申し込み、昨年7月から参戦の準備を進めてきた。

コースは路面の凹凸が激しく2輪部門では、ほぼ毎年のように死亡事故も発生しているという。世界で最も過酷なレースとされ、上位進出には危険も伴う。「順位は意識しない。今回は無事完走できればいい。レーサーの集大成と思って楽しんできたい」

高ぶる気持ちを胸に世界に羽ばたく。

（神庭芳久）

◇

今年は亥年。団塊世代の大量退職が話題になっているが、年齢を問わず、目標をしっかり掲げて突き進む姿には言い知れぬ魅力がある。そんな「猪突に生きる」人々を追った。

コーナーをうまく曲がるには、ドライバーとパッセンジャーの〝阿吽（あうん）の呼吸〟が欠かせない

わたなべ・まさひと　昭和39年、東京都生まれ。熊谷市在住。平成17年、日本レーシングサイドカー協会（JRSA）主催の全日本サイドカー選手権チャンピオン。現在は測量会社を経営しながら、レースの舞台に立つ〝二足のわらじ〟を履く。子供たちにサイドカーを教えるなど普及発展にも努める。マン島レースへの日本人のサイドカーでの参戦は昭和51年の熊野正人さんに次いで2組目。今回はその伝説のライダーが支援してくれる予定。

マン島TT（ツーリスト・トロフィー）レース

英国グレートブリテンとアイルランドの両島に囲まれたアイリッシュ海にある淡路島ほどの大きさのマン島で、毎年5、6月に開催される公道レース。1907年に始まり今年100周年を迎える。サイドカーレースは、首都ダグラスの市街地から時計回りに1周約60キロのコースを3周する。2輪レースもある。延べ10万人近いバイク愛好家の観光客らが訪れる。東京都が11月、観光振興策の一環として、噴火災害後の三宅島で、マン島を手本にした公道レースを行うことでも注目されている。

「完璧目指せ」

79歳は
熊谷市
4日午
ろ、上尾
3階の無
ん(60)方
鉄筋コン
て団地の
草島さん
上尾署

県の仕
日、さい
埼玉会館
清司知事
200人
いさつを
上田知
税率の向
け、「県
ている」
「われわ
っても完
壁を目指
速くて正
ほしい」
式典で
スの向上

埼玉
さいたま総局
さいたま市浦和区岸町7－1－4
在原実業浦和ビル2F
〒330－0064
☎048(829)2311(代)
FAX048(830)1091
通信部
熊谷 048(522)1995
所沢 04(2921)5060
秩父 0494(24)8863
川越 049(222)1084
草加 048(964)3953
新売 048(822)1956
広告 048(866)2661
折込広告のご用命は 03(3275)8649
購読申し込み 0120・81・2950
配達・集金 0120・34・4646
紙面・記事 03・3275・8864
Web http://www.sankei.co.jp/edit/kenban

言葉の雑学

〈ふうふう〉「汗をかいてる銭を返しちゃ、山嵐が何とか云（い）ふだらうと思ったから、机の上へ置いてふうふう吹いて又（また）握つた」（漱石

「坊っちゃん」くときの擬声語日ふうふう言っと、忙殺ぶりを